

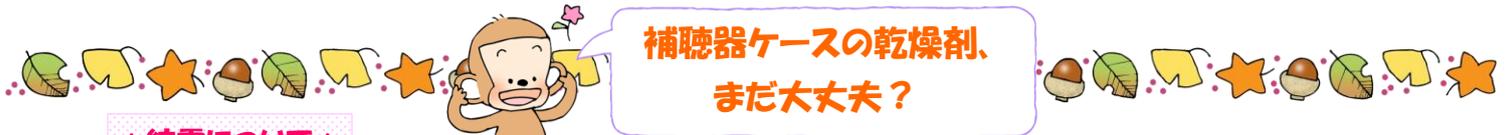


みみだより No.29

鳥取聾学校ひまわり分校 聴能担当 R3.11.12

文責：谷田

立冬が過ぎ、暦の上では冬が始まりました。気温もぐっと下がり、最低気温が10度を下回る日も増えてきます。暖房器具を使い始めたお家も多いのではないのでしょうか。ストーブやヒーターを使うようになってくると起きてくるのが、「補聴器・人工内耳内部の結露」や「補聴器電池の消耗」です。ここで今一度、補聴器や人工内耳の管理についておさらいしてみましょう。



補聴器ケースの乾燥剤、 まだ大丈夫？

* 結露について *

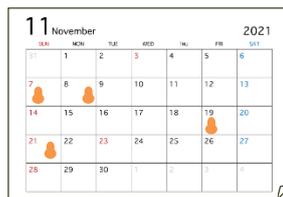
寒い外気と暖かい室内の気温差によって冬場に起こりやすい「補聴器・人工内耳内部の結露」。内部に入り込んだ湿気は、補聴器や人工内耳の故障の原因の一つとなります。一番の予防は「しっかりと乾燥させること」です。夜寝るときは、必ず乾燥ケースに入れて乾燥させましょう。その際は、乾燥剤（シリカゲル）の状態を確認してくださいね。「ずっと同じ乾燥剤を入れっぱなしだわ。」…なんてことのないように…！



青→ピンク（薄青）になると効果がなくなるものが多いようです。一般的に補聴器用の乾燥剤は、**3ヶ月で交換**が目安です。

* 電池の消耗について *

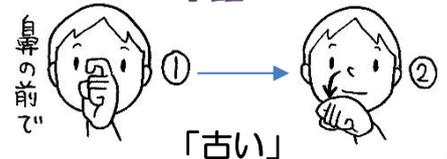
ストーブやヒーターなどから発生する二酸化炭素や乾燥の影響で、冬場は電池寿命が短くなります。電池寿命は補聴器の種類や使用頻度によって違いますので、自分の補聴器はこの時期どのくらいの期間もつのか、電池を交換する時にカレンダーに電池の保護シールを貼るなどして、把握しておくのがよいでしょう。



《 気をつけること 》

- ☆電池の保護シールは、一度はがしてしまうと放電を開始してしまいます。使う直前までは、はがさないようにしましょう。
- ☆予備の電池は、小銭や鍵などの金属類と一緒にしないようにしましょう。電池が使用前に金属と反応し、ショートすることで消耗してしまう可能性があります。
- ☆補聴器等を乾燥ケースに入れる際は、電池と一緒に入れないようにしましょう。電池の消耗が早まります。
- ☆電池交換の前には手を洗いましょう。手の油脂や汚れが電池につくと、補聴器の故障につながる可能性があります。
- ☆電池交換の際、保護シールをはがした後に1～2分そのままの状態から電池を入れることで、電池内の亜鉛が効率よく化学反応し、電池の持ちがよくなるようです。

ワンポイント 手話



「かえる、かわる」

「おやこ手話じてん」より

